

2026 年の白露(はくろ)は9月7日です。

期間としては、9月7日から次の節気である秋分(9月23日)の前日までとなります。

白露とは、夜間に気温が下がり、空気中の水蒸気が冷やされて草花に白い「露」を結ぶ頃のことです。

「陰気ようやく重なりて露こごりて白色となれば也」

という言葉が江戸時代に発行された暦便覧(こよみびんらん)にあります。

暑さ(陽気)が寒さ(陰気)と入れ替わり、気温が下がることで草や地際に朝露ができ、朝もやの中で朝露が白く輝く、という意味です。

秋なのに「白」?

日本人からすると「白」は雪=冬をイメージするのが一般的のように思いますが、中国の陰陽五行では「白」は秋の色とされています。日本で「白」というと雪や冬のイメージがありますが、古代中国の自然哲学である五行説では万物を「木・火・土・金・水」の5つの要素に分類します。季節や方角、色もこれに当てはめられました。



木(もく)	季節: 春	色: 青	方角は東、樹木の成長を表す。
火(か)	季節: 夏	色: 赤	方角は南、炎のような情熱的な性質を表す。
土(ど)	季節: 土用	色: 黄	方角は中央、万物を育み保護する性質を表す。
金(きん)	季節: 秋	色: 白	方角は西、金属のような冷徹で固い性質を表す。
水(すい)	季節: 冬	色: 黒	方角は北、生命の源泉という意味を表す。

このルールに従い、秋は「金(きん)」の氣にあたり、これに対応する色が「白」と定められたため、秋の節気である「白露」に「白」の字が使われています。



名月や 池をめぐりて 夜もすがら

松尾芭蕉

解釈: 「名月を眺めながら池の周りを歩いていたら、いつの間にか夜が明けてしまった。」

夜もすがらとは、「夜どおし・一晩中」を意味します。

この句には以下の2つの解釈があるそうです。

- ① 中秋の名月の夜、池の水面に映る月に感動し、池の周りをそぞろ歩いて趣を楽しんでいたところ、いつのまにか夜が明けてしまった。
- ② 明るく照らす中秋の名月を眺めながら、池の周りをそぞろ歩いて趣を楽しんでいたところ、いつのまにか夜が明けてしまった。

上記のように、名月とは池に映る月なのか、もしくは空に輝く月を指すのかで解釈が分かれるようで、この句では月と池が並んでいることから、「池に映る月」を連想されるため、

①が定説とされているそうです。